

次期農業・農村振興基本計画の肝である「重点戦略の進め方について」



質問

次期計画では、4つの重点戦略を掲げており、重点戦略の1つ目に「消費者の需要に即した生産振興と消費拡大の推進」を掲げております。消費者の需要に即した生産振興とはどのようなものか伺います。



答弁

生産者の所得向上を図るためには、消費者の需要に即した形で生産量を増加させることが重要になってきていることから、複雑化している流通の実態及び消費者の需要を把握し、高収益かつ特色ある農業を推進していくものです。このため、生産から消費までの本市における流通網の全体像を把握するための調査を行い、それらを踏まえ、農業者、関係機関・団体等と情報を共有し、農産物等の生産振興を図ってまいります。



質問

消費拡大のための施策をどのように展開していくのか伺います。

市議会では、演壇にアクリル板を設置し、新型コロナウイルス飛沫感染防止対策を実施しております。



答弁

本市産農産物等の消費拡大につきましては、消費者に選ばれる生産を進めることが重要でありますことから、本市産農産物等のブランド化と販路拡大に取り組んでまいります。そのため、6次産業化へ向けた取組みの推進や農業生産工程管理（GAP）の普及啓発等による高品質・高付加価値化を進めるとともに、市内外に対し本市産農産物等の魅力を積極的に発信してまいります。



質問

新たな可能性が拓く新時代の農業・農村の構築に向けた施策の展開とはどのようなものか伺います。



答弁

4つ目の重点戦略である「新たな可能性が開く新時代の農業・農村の構築」は、その他の3つの重点戦略の各領域から、特に「新時代」の農業・農村に資する施策を抽出・再編するものです。スマート農

業の推進をはじめ、農福連携の推進や福島大学食農学類との連携といった農業以外の分野との協力による地域共生社会の創出、農産物直売所の取組みや魅力発信による都市部の消費者と農村部の農業者のつながりの深化など、各種施策の相互作用を積み重ねていく中で、持続可能で魅力あふれる本市農業・農村の新しい形を模索してまいりたいと考えております。

新聞報道では、民間が進める農業支援サービスの多様化が進んでおり、ドローンによる散布代行やドローンをはじめとした各種農機のリース及び農機シェアリングサービスのほか、コロナ禍で技能実習生の受け入れが難しくなった農家に向けた代替人材の確保を支援する企業等も増えているとのことです。新たな可能性が増える取組みを進め、利用者が急伸している中、課題となるのが、このような動きについての認知度が低いことで、中山間や小規模農地などでは、このようなサービスが利用できないという誤解もあり、それを解くことだと書いています。

私は、このようなことをうまく軌道に載せていく役割を担うのが行政だと考えます。いち早く新たな可能性で農業意欲を高めるような情報を集め、農業で安定した生活が送れるように軌道に乗るまでしっかりと支える仕組みづくりについて、これまで以上にしっかりと伴走型に関わっていくことを強く要望いたします。

※写真はイメージです。



地域の高齢者や子供達が安全・安心に生活がおくれるように活動しています。



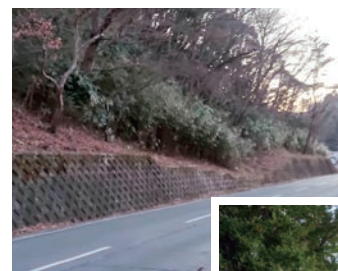
側溝新設工事



通学路カーブミラー交換



通学路脇側溝工事



道路脇雑木撤去作業

※活動実績の一部を抜粋しております。

西山かずみプロフィール 昭和34年9月13日（いわき市平生まれ）

- 公益財団法人ときわ会 常磐病院 評議員
- 学校法人志向学園 かなや幼稚園 理事
- いわきバレーボール協会 参与
- 中神谷スポーツ少年団 顧問

経歴

国立福島高専機械工学科卒
アルプス電気(株)東京本社入社
「タウン情報いわき」の(株)アドプラン入社
ときわ会グループ(株)シグマ入社
総合広告代理店を起業



<https://www.facebook.com/kaz2419>



nishiyamakazumi.hatenablog.com/



【発行】西山一美後援会 〒970-8026 いわき市平字愛谷町3丁目8-1 TEL.0246-25-2141